

第 8 回

1. 日 時 平成 16 年 6 月 22 日 (火) 15:00 ~ 17:00

2. 場 所 東京都千代田区霞が関 3 - 2 - 4 (霞山ビル 9 階)
霞山会館 さくらの間

3. 委員の現在数 4 名

4. 出席した委員の数及び氏名

委員長 若杉 敬明

委 員 中村 実

委 員 山崎 元

以上 3 名 出席

5. 議 題

・積立金運用実績 (報告)

(平成 15 年度実績及び平成 16 年 6 月末現在)

・保有債券の価格動向と信用リスクの評価 (審議)

6. 開 会

事務局から、本日の積立金運用委員会は同規則第 4 条の規定による定足数を満たしているので、有効に成立している旨の報告があった。

続いて、板倉治成理事長が挨拶を述べた後、経済産業省放射性廃棄物対策室長の山近氏よりご挨拶を頂き、委員長は議事に入った。

7. 議事の概要

井上毅専務理事から、上記 5. の議題について下記を説明。

・積立金運用実績 (平成 15 年度実績及び平成 16 年 6 月末現在)

平成 15 年度運用額は、平成 14 年度積立金受入分 (694 億円) から原環機構への取戻額を差し引いた額に、当期の利息収入を加えた 682 億円。

運用内訳は、国債 335 億円 (49%)、政府保証債 100 億円 (15%)、地方債 112 億円 (16%)、事業債 135 億円 (20%) と、ほぼ計画通りの運用を達成できた。

購入債券の平均利回りは 0.94% で、運用の評価基準となる同時期にお

ける長期国債応募者利回りを運用計画に基づく月々の購入予定額で加重平均した利回り0.83%を上回った。

平成16年度運用額は、平成15年度積立金受入分(578億円)から原環機構への取戻額を差し引いた額に、当期の利息収入を加えた550億円を見込む。平成16年6月末現在、ほぼ計画通り運用している。

・保有債券の価格動向と信用リスクの評価

保有債券の信用リスク管理は、格付機関の格付けを基準として行っているが、日常的な管理として保有債券の価格、利回り及び国債とのスプレッドの動向を定期的にウォッチする方針のもと、保有債券のうちAA格マイナスの債券について、債券価格等の動向と信用リスクの関連について取りまとめ、説明した。

その後、上記の議題について審議した結果、信用リスク管理の手法としてスプレッド分析は、一定の範囲において有効であることについて了解を得た。

8. 次回スケジュール

平成17年1月を目途に開催したい。

9. 閉会

以上をもって議事全てを終了し、委員長は閉会を宣した。

< 委員会で寄せられた意見 >

・ 積立金運用実績（平成15年度実績及び平成16年6月末現在）

積立金の運用については、運用計画に沿った運用となっており、妥当な運用だったのではないかと。

・ 保有債券の価格動向と信用リスクの評価

保有債券のリスク管理をする時に、重点銘柄の保有債券の価格動向を分析する取り組みは評価できるのではないかと。

保有債券の信用リスクは、基本的には格付けにより評価するが、債券の価格動向とともに信用リスクを一番早く反映する株価動向もあわせてウォッチし、総合的に判断するということが良いのではないかと。

保有債券の信用リスクを判断する上で、グループ内企業の状況についても、企業業績、持株比率、ジャーナリズム情報等収集し、定期的に検討・評価する必要があるのではないかと。

「事務局」資金管理業務部 TEL：03 - 5157 - 5850